

## 序章 はじめに

---

この章は、「富谷市都市計画マスタープランとは何か？」を解説したものです。ここでは、本計画書の位置づけや構成、関連する上位計画の概要などを整理しています。

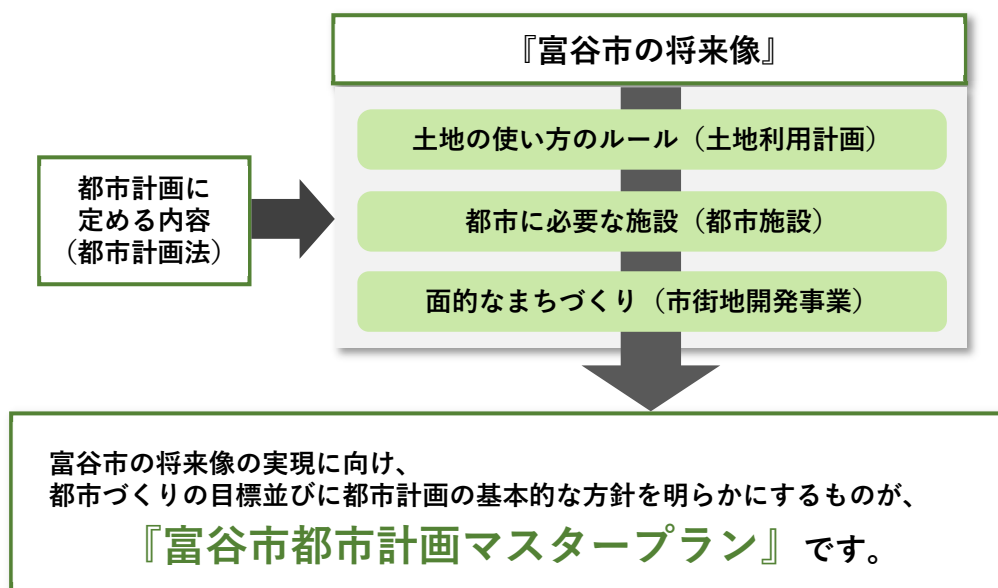


## 1 富谷市都市計画マスタープラン策定の目的

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2に規定する「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、都市の将来像の実現に向け、まちづくりの目標を示し、土地利用や都市施設等、個別の都市計画の大きな方針を明らかにするものです。

富谷市都市計画マスタープラン（以下、「本マスタープラン」という。）は、富谷市（以下「本市」という。）の都市計画のあるべき姿とその実現に向けた目標や基本方針等の道筋を定めたものです。

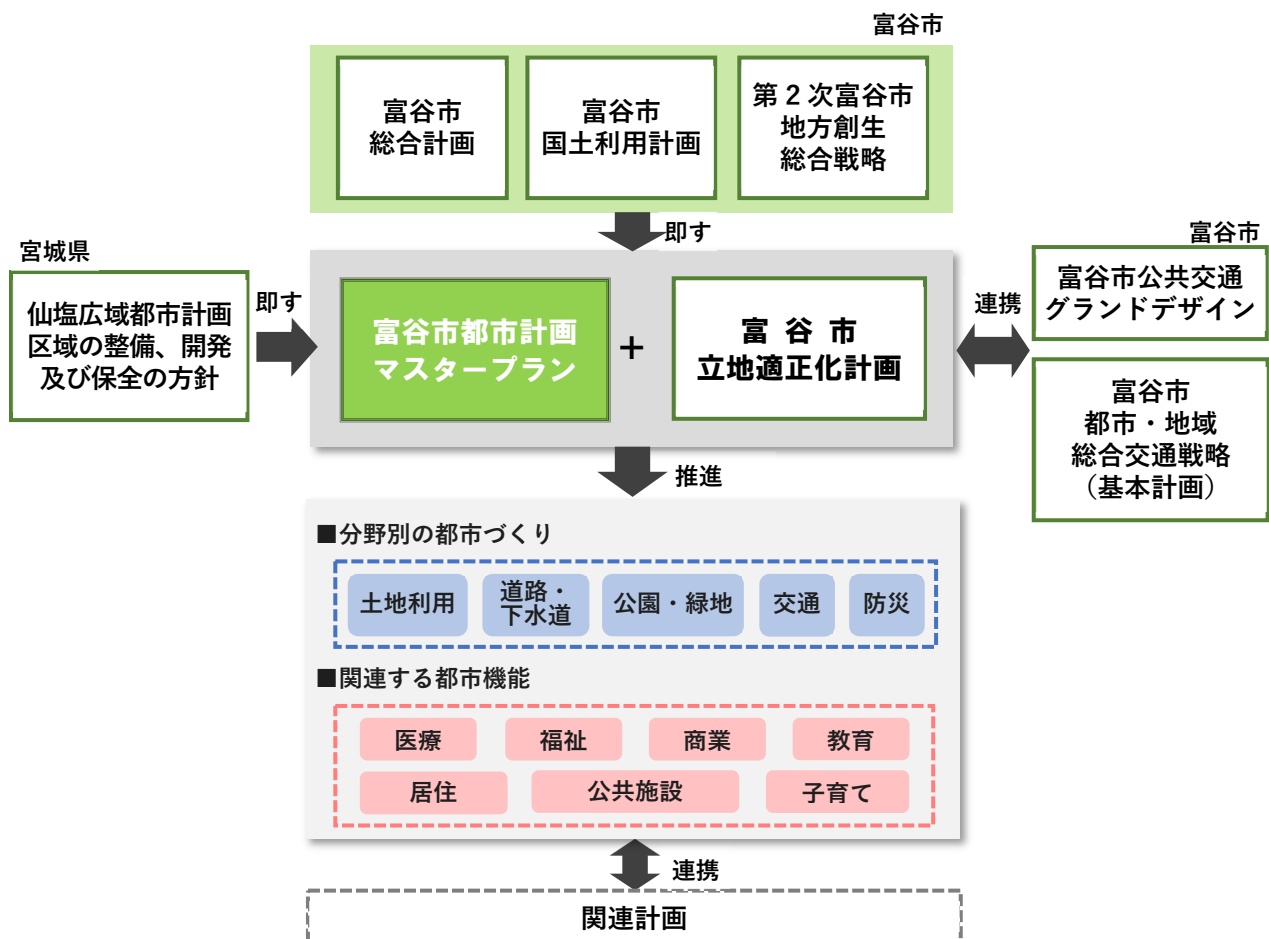
また、本マスタープランは、本市の都市計画における最上位の計画であり、具体的な都市計画を進める際の指針になるものです。



## 2 富谷市都市計画マスタープランの位置づけ

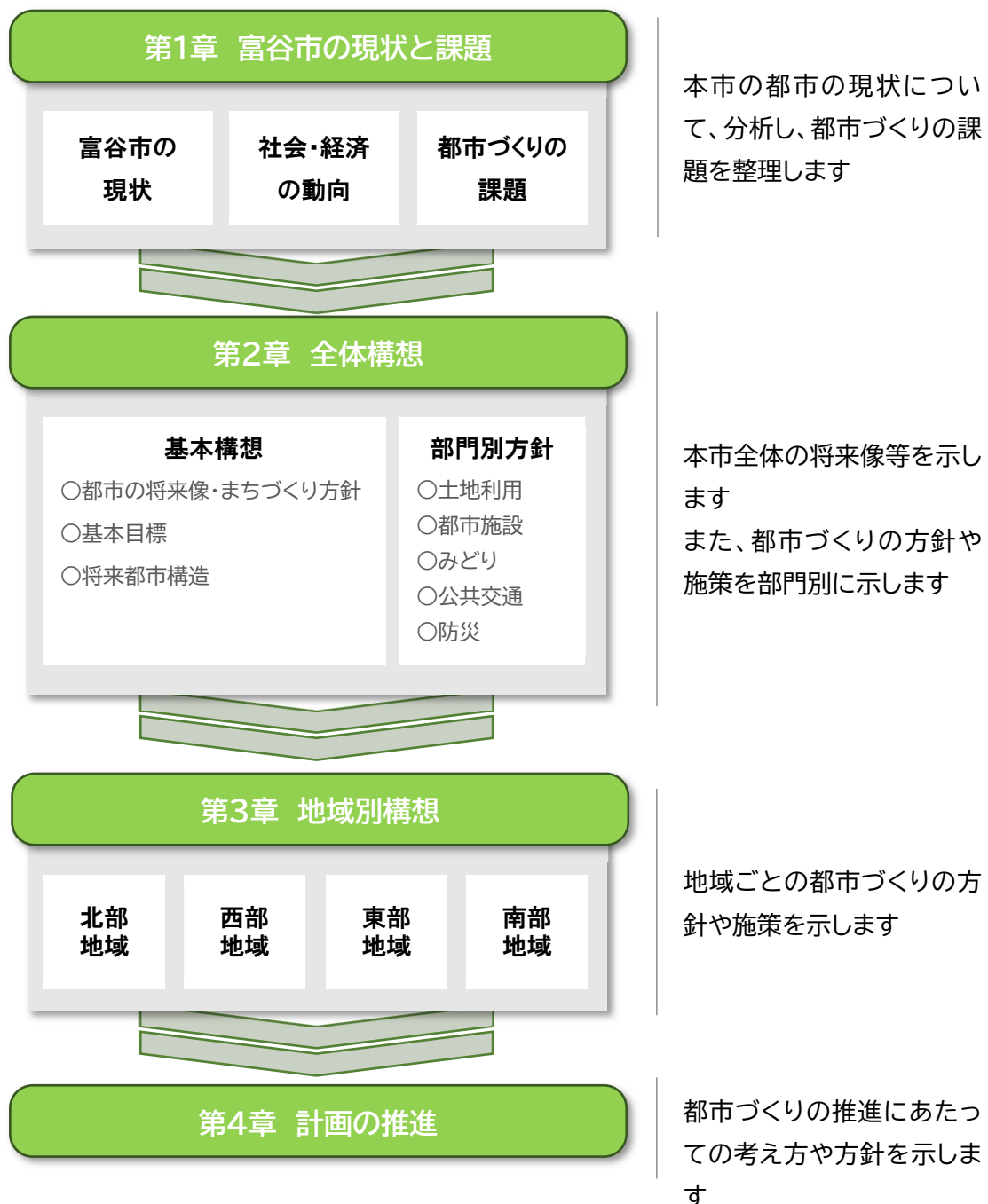
本マスタープランは「富谷市総合計画」、「富谷市国土利用計画」、「第2次富谷市地方創生総合戦略」、「仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即すものとし、富谷市公共交通ランドデザイン等の関連計画と連携を図りながら定めます。

<富谷市都市計画マスタープランの位置づけ>



### 3 富谷市都市計画マスタープランの構成

本マスタープランは、本市の現況、課題を踏まえるとともに、上位計画や本市を取り巻く社会情勢の変化等を受けて、都市全体の将来像や土地利用、都市施設等の部門ごとのあり方を示す「全体構想」と、地域ごとのまちづくりの方向性や方針を示す「地域別構想」の2段構成とします。

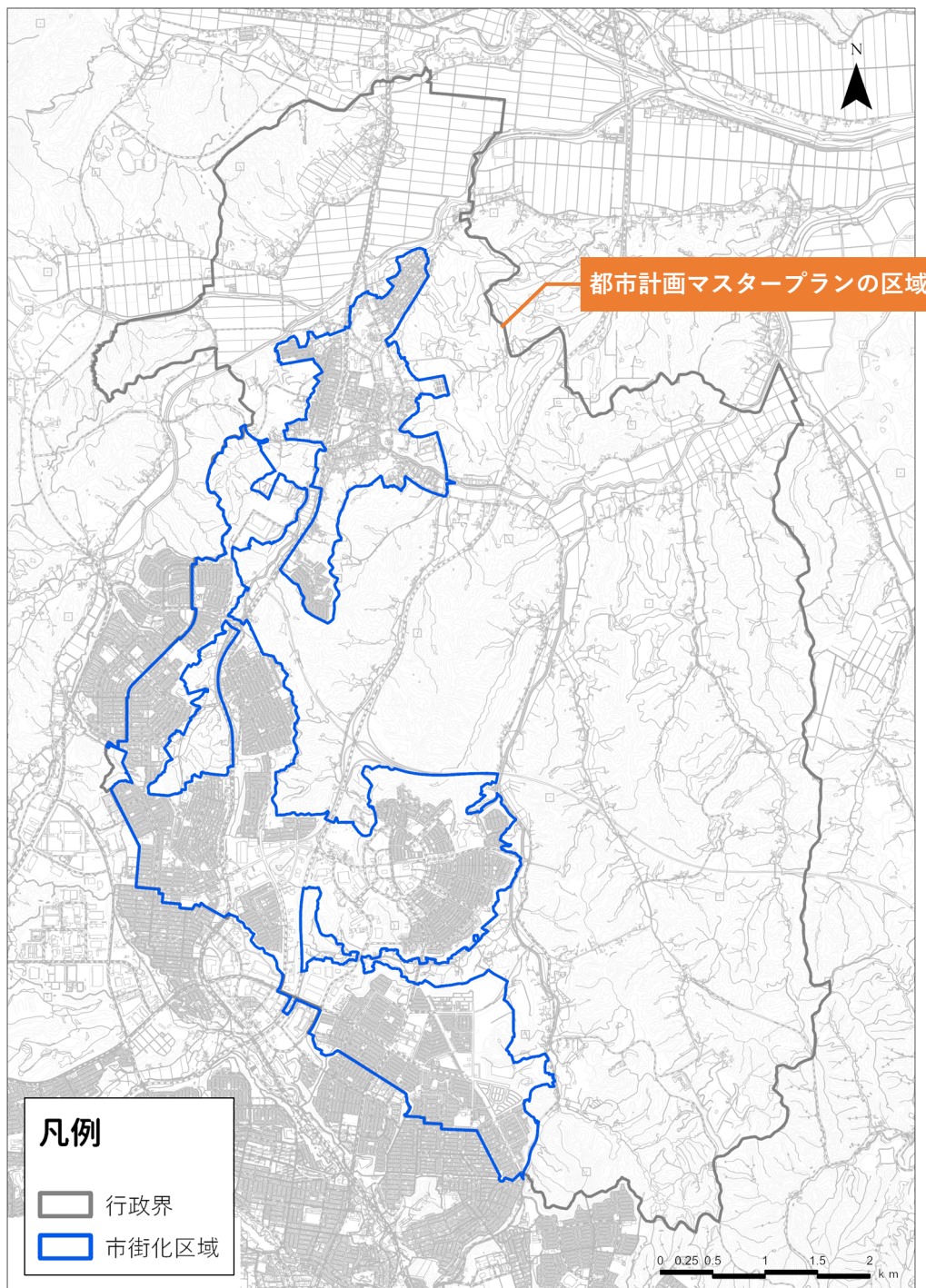


## 4 目標年次及び対象区域

本マスタープランは、富谷市総合計画策定周期に合わせて概ね 20 年後の令和 27 年度を見据えた将来像等を定めます。また、具体的な方針、施策については令和 17 年度を目標に設定します。

対象区域は、都市計画区域内（本市全域）とします。

<富谷市都市計画マスタープランの区域>



## 5 上位・関連計画

### (1) 富谷市総合計画

#### ① まちづくりの将来都市像



本市の大きな特徴として、かつて奥州街道の宿場町として栄えた「しんまち地区」をはじめとする、古き良き富谷を守り、語り継いできた古くからの地域と、自然環境と住環境の調和による独自の魅力によって、全国各地から人が集まってきた新しい地域が融合して出来たまちであるということがあげられます。

将来像の実現に向けて、本市の特徴である多様な“ひと”と“資源”を「活かし」、「守り」、「育み」ながら、新たなまちづくりへと「動き」出します。そして、市民・議会・事業所・行政の協働・協力・連携（「つながり」）を図り、富谷市が市民の「誇り」となるよう「オールとみや」の体制で「新生富谷市」を創造していきます。

#### ② 基本方針

1. 暮らしを自慢できるまち！

2. 教育と子育て環境を誇るまち！

3. 元気と温かい心で支えるまち！

4. 市民の思いを協働でつくるまち！

#### ③ 基本理念

優れた住環境をはじめ、宿場町の歴史と伝統や特産品、緑豊かな環境、そして富谷らしい温かい心をみんなで誇ります

伝統文化や豊かな自然はもとより、高齢者や障がい者、自慢の子どもたちを守るとともに、市民みんなの権利を守ります

豊富な人材や誇れる豊かな自然、歴史や特産等独自の地域資源、そして市民の声をまちづくりに積極的に活かします



富谷らしい温かい心で、市民も企業も行政も、協働によってつながるとともに、健全な財政運営を次世代へとつなぎます

富谷の新たな魅力づくりや希望あふれる将来に向けて、市民も企業も行政も、垣根を越えて一丸となって動きます

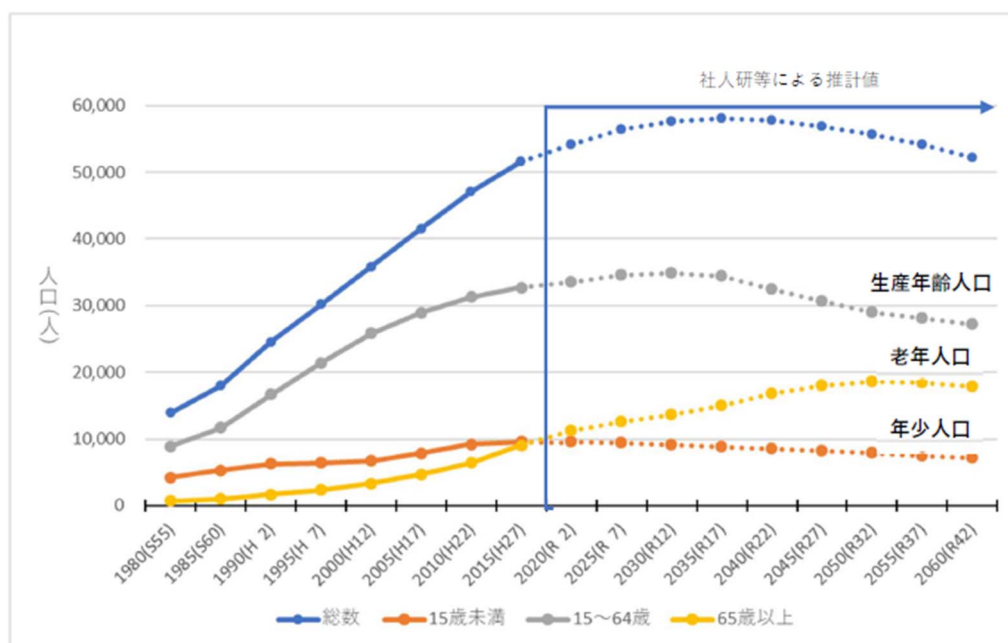
心身ともに健全な、たくましく生きる子どもたちを育むとともに、市民がともに助け合い、支えあう福祉の精神を育みます

## (2) 第2次富谷市地方創生総合戦略・第2次富谷市人口ビジョン

### ① 将来人口構成の予測

人口増加を続けてきた本市においても、将来的には少子高齢化の影響を受けるようになってきます。年齢3区分別人口の推移をみると、生産年齢人口は平成27(2015)年まで増加傾向で推移していましたが、その後は増加傾向が緩やかとなり、令和17(2035)年以降は減少傾向に転じるものと推計されています。

<年齢3区分別人口の推移>



出所：2015年までは「国勢調査」(総務省)

2020~2045年は「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(社人研)

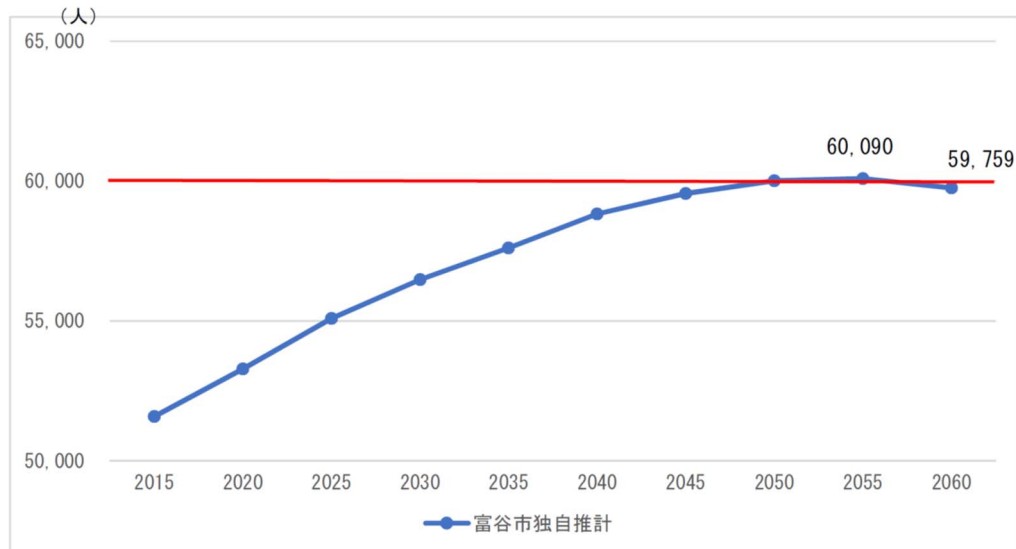
2050年以降はまち・ひと・しごと創生本部による推計値



## ② 人口の将来展望

本市の独自推計による人口の将来展望としては、2055年の60,090人を頂点に、2060年の59,759人とわずかに減少しますが、引き続き地方創生総合戦略の取組みを展開することで、100年間ひとが増え続ける富谷市を目指します。

<人口の将来展望>



(出典：第2次富谷市人口ビジョン報告書)

## ③ 基本目標

1. 地域の魅力を生かした雇用の場の創出
2. とみやシティブランドの創出・発信による交流人口の拡大
3. まちの未来を育てる環境の充実
4. すべての世代が安心して暮らすことができる魅力的なまちの創造

### (3) 富谷市国土利用計画

#### ① 土地利用の基本理念

本市のまちづくりの将来像として掲げている『住みたくなるまち日本一～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～』の実現に資するため、市土は市民のための限られた資源・財産として認識し、公共の福祉を最大に優先し、緑豊かな自然や農地などとの調和を図りながら、バランスの取れた都市機能の配置を進め、将来にわたって豊かに安心して暮らすことのできる持続可能な市土の形成を図ることを本計画の基本理念とする。

#### ② 土地利用の基本方針

1. 市土の有効利用と土地利用転換の適正化
2. 自然と市街地が調和し、バランスの取れた市土の形成
3. 誇りと生きがいをもって、将来にわたって豊かに安心して暮らすことのできる市土の形成
4. ネットワーク型都市構造の形成

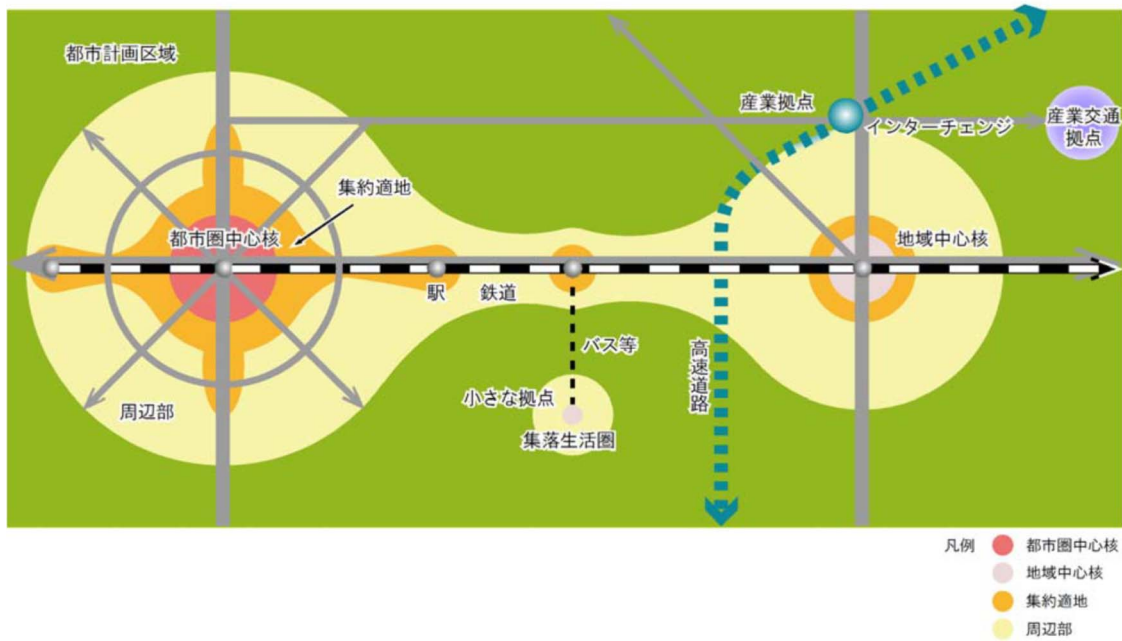
#### (4) 仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成 30 年 5 月）

##### ① 都市づくりの基本理念

1. 内陸部への集約・移転により，まとまりのある良好な市街地の形成や防災性の向上が図られるまちづくり
2. 人口減少・超高齢社会においても都市圏全体として調和の取れたコンパクトなまちづくり
3. 「宮城の将来ビジョン」に掲げる富県宮城の実現に資する活力あるまちづくり
4. 豊かな自然環境の保全とそれらと調和したまちづくり

##### ② 将来都市構造（多核連携集約型都市構造）

<将来都市構造のイメージ>



### ③ 主要用途の配置の方針

<主要用途の配置の方針>



(5) 富谷市公共交通ランドデザイン 都市・地域総合交通戦略（基本構想）

① 基本目標

「住みたくなるまち日本一」にふさわしい  
交通環境の実現

② 交通の将来像

将来像1：さまざまな選択肢のある環境負荷の少ない交通環境の実現

（マイカー依存からの脱却）

将来像2：あらゆる世代の人々がいきいきと活動できる交通環境の実現

（高齢化社会への対応）

将来像3：都市部、郊外部にすばやくアクセスできる交通環境の実現

（地域間交流・連携の強化）

③ 交通体系の将来像

○都市拠点：明石台、成田、大清水地区

高度な機能を持つ商業施設・医療施設が立地し、図書館の設置予定があり、市全域や周辺都市からも人々が集う富谷市の中心となる拠点

○地域拠点：旧市街地

歴史的景観が残るしんまち地区があり、市役所、中央公民館等が立地し、住民や観光客等の人々が集う地域の拠点

○産業拠点：成田二期北、高屋敷地区

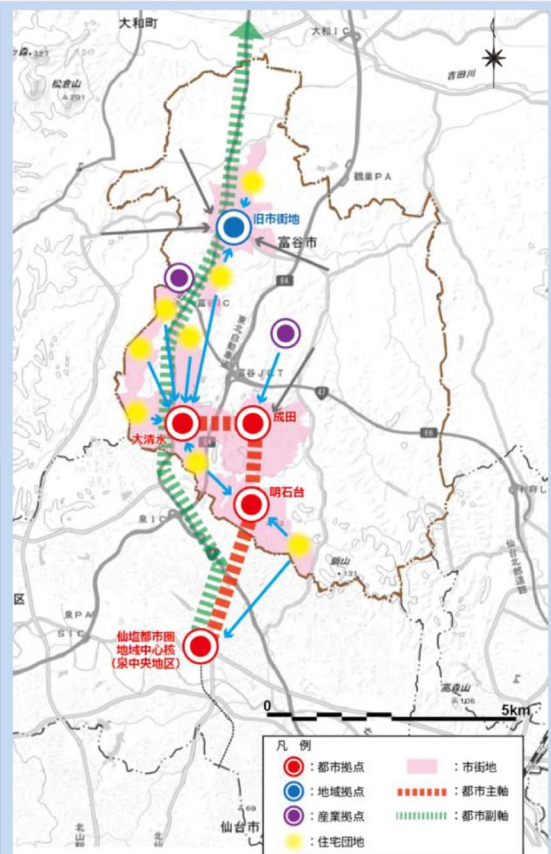
工業・流通業務機能の誘致促進、計画的整備を推進し、多くの就業者が集まる拠点

○都市主軸

泉中央地区と明石台、成田、大清水地区の「都市拠点」を連絡する都市の骨格となり、広域的な交流・連携を支え、過度なマイカー交通への依存からの脱却に向け公共交通の背骨を形成する軸

○都市副軸

面的に市街地が広がる市南部において、都市主軸から離れた区域の骨格として都市主軸を補完する軸、および、都市主軸と市北部や大和町、大衡村を連絡する骨格となる軸



(6) 富谷市都市・地域総合交通戦略（基本計画）

① 戦略の柱

基本方針、将来像、都市構造

